

## 体験型プログラム「なりきり獣医さん」企画から実施まで

○松山薫，須田朱美，麻生千晶，安部啓太郎，矢作薫里，渡辺海咲  
(横浜市立よこはま動物園)

当園では小・中学校向けに座学の団体向け学習プログラムを、通年で受け入れている。しかし、内容は毎年少しずつ更新するのみで、数年間大幅な変更を行ってこなかった。これまでのプログラムは小学校低学年を対象とした所要時間 30～40 分の座学が多かったため、新規プログラムは「体験型」をキーワードに、需要の多い「動物園の獣医」をテーマに企画することにした。対象学年は過去の実績より、受け入れ件数の多い小学校低～中学年を想定し、定員は 35 名を上限に設定した。

授業はまずロゴ入りの白衣を着用し、獣医の姿になりきることから始まる。内容は「動物たちの健康診断」とし、チーム毎に①マイクロチップの読み取り、②計測、③心音の聴き取り、④予防接種を行う。生体を用いた授業が最も効果的と考えられるが、動物アレルギーの子供が少なくないことを考慮して、動物のパペットを用いることとした。

マイクロチップの読み取りは実際に使用しているマイクロチップとリーダーを用いて個体識別を行い、次にカルテに記入された部位の計測をメジャーで行う。心音の聴き取りはまず各自の心音を聴診器で聴いた後に、パペットの心音を聴いてみる流れである。パペットの内部には実際の動物から録音をした心音が ICレコーダーによって再生されている。最後の予防接種では、様々な大きさのシリンジを並べることで、子供たちの興味をそそることができる。

40 分程度の体験であるが、やはり自分たちの体を動かして行う授業は子供たちがとても積極的に取り組むことができ、「楽しかった」という感想がこれまでよりも多く聞かれるようになった。プログラムの性質上、一度に大勢の人数に対応することはできないが、1 年間実施することによってプログラムが構築できたので、今後は受け入れ件数を増やしていきたいと思う。